

渡し舟 モザンビーク ナマクラ郡 2016年

生活道路の橋が洪水で流され、丸太をくりぬいて作った小舟が登場した。漕ぎ手がないので、渡ったら戻って来ない。

写真撮影：清治 有



無人の田園地帯かと思ったら モザンビーク ザンベジア州 2017年

田畑を耕起して播種が終わるまで高床式の仮住まいに寝泊りする農家が多い。満点の星が毎夜、地上の暗闇を見守ってくれる。

写真撮影：清治 有



食堂の手洗いタンク ケニア キリニャガ郡・クトゥス 2014年

下部に木炭などで加熱する装置を備えるドラム缶。食前食後にお湯で手を洗う。石鹸は洗濯用せっけん。

写真撮影:清治 有



稲収穫期の鳥追い モザンビーク ショクエ 2014年

ムチを地面にたたきつけ鉄砲のような音を出して鳥を追う。

写真撮影:リエラ 麻子



ホントに満タン ケニア ナイロビ 2012年

給油は3通りあって、レベル1ー普通に満タン、
レベル2ー満タンにした後、車を揺すりさらに給油、
レベル3ー給油口のある方のタイヤを台に乗り上げさせ車を斜めにし、限界までガソリンを入れるホントに満タン。

写真撮影:清治 有



フェゴ デ コバ モザンビーク ショクエ 2012年

直訳すると穴の遊び。石板の穴の中にある石を複数の参加者が順番に動かして競う。アフリカ各地に類似したゲームがあるようだ。市場の前で朝からずっとゲームをしていた。

写真撮影:田中 占領



朝もやの中での脱穀作業 シェラレオネ カンビア県 2007年

稲刈り後田んぼわきで乾燥させた稲を叩いて籾を落とす。籾を家へ持ち帰って臼と杵で精米する。収穫稲のほぼ全量が自給用で、普通の家では週に数回程度食卓にのぼる。

写真撮影：飯塚 頼雄



穀物貯蔵庫 ガーナ 食糧農業省 ジラパ郡事務所 2008年

泥と草で作られ、ソルガムなど穀物を保存し害虫などから守る。これは日々の一時保存用だが、長期保存用はもっと大きく、中に仕切りがあり、数種類保存できる。

写真撮影：森田 信晴



シーマを作る少女 モザンビーク・ショクエ 2008 年

農村では、トウモロコシ搗きから始まるシーマ作りをはじめ、薪、水の確保、洗濯、掃除など、労力を要し時間のかかる家事の多くが、子供、特に女兒の負担となる。就学年齢が遅れたり、留年を繰り返して、不十分な識字、低い教育履歴につながることが多い。

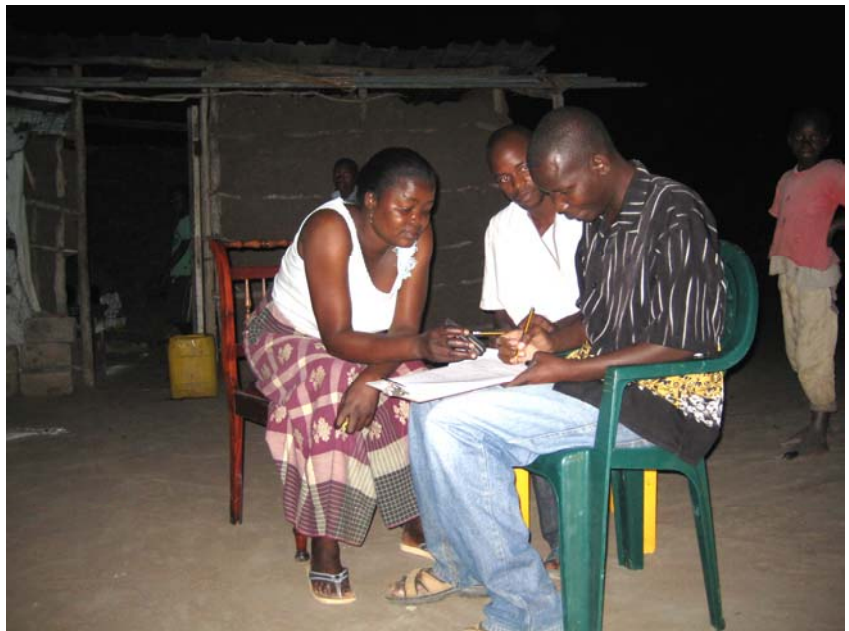
写真撮影：興村 暁子



携帯電話が懐中電灯代わり モザンビーク・ショクエ 2007 年

ショクエの街区から外れた地区でも、そこに多く居住する小規模農家の軒先まで大抵は電気が来ているが、引き込み費用と電気代が大きいと引かない農家も多い。携帯電話の取得費用と使用料は割安であるため、電話の普及が近年著しく、1家族で数機持つことも珍しくない。

写真撮影：華表 一夫



川向こうまで薪集め モザンビーク・シヨクエ灌漑地北方のマカラタネ橋 2008 年

シヨクエ灌漑地区で耕作する小規模農家の 9 割以上が燃料を薪に頼る。灌漑地区にも居住地にも林やブッシュが少なく、7割がその薪を購入しなければならない。薪材集めと薪割りは重要ななりわいである。

写真撮影:興村 暁子



2000 年の大洪水の水位 モザンビーク・ガザ州シヨクエ灌漑地 2007 年

南アフリカ、ボツワナ、ジンバブエの国境を流れてモザンビーク南部からインド洋に注ぐリンポポ川が、2000 年 2 月上旬流域に数週間断続的に続いた記録的豪雨のため、中下流で氾濫し、洪水が起こりました。シヨクエ灌漑地のコニャネ村を襲った洪水は、引くまで数ヵ月間かかり、灌漑施設の破損、家畜損失、農具と食糧の流失など、大きな被害を残し、今も完全な復旧には至っていません。

写真撮影:興村 暁子



農村の生活では女性にかかる負担が大きい モザンビーク・ショクエ灌漑スキーム 2007年

ショクエ市の町外れにある農家の主婦は、トウモロコシあるいは米を搗く作業に毎日1～2時間を要する。1日分の薪集めに1時間ほど、飲用水を共同井戸で汲んで持ち帰る必要のある時は一往復に40分ほどかかる。搗いて皮をむいたトウモロコシを数日間水に浸した後で粉にする。粉を「シマ」というウガリのような料理に仕上げるまで2時間ほどかかる。

写真撮影：華表 一夫



飲用水運びのお手伝い モザンビーク・ショクエ 2007年

リオンデ村の夕方。農村の婦人と子供、特に女兒に、生産と生活の場にかかる作業負担は大きい。毎日、共同井戸から家まで、数リットルから10リットルもの水を頭に乗せて運ぶ。

写真撮影：華表 一夫



野菜出荷の手伝い モザンビーク・シヨクエ 2006 年

この地域の主たる換金作物は稲と野菜。野菜は生産者が個々に出荷し、販売する。おそらく 40 キロメートルほど先のマシアという町へ乾季作のトマトを運ぶのであろう。少女は、ピックアップあるいはライトバンを改造した乗り合いバスを延々と待つ。時刻表は無い。

写真撮影：田村 政人

